



観光情報学会緊急シンポジウム

震災後の影響と道内観光産業の振興プラン

— 北海道観光産業にいま必要なことは何か? —

日時

2011年6月25日(土)

13:30 ~ 17:00

場所

北海道大学
学術交流会館
2F大講堂

札幌市北区北8条西5丁目
JR 札幌駅北口より徒歩7分
※北大正門を入り左手 前方の建物

入場無料

東日本大震災後、北海道は海外からのインバウンド観光客の大幅な落ち込みという大きな影響を受けている。実際問題として、震災後は多くのインバウンドのマスツアー客がキャンセルされ、一部ホテルが営業を一定期間見合わせるなど、道内宿泊事業者を中心とした観光事業者は大きな打撃を受けている。喫緊の課題は、いわゆる「風評被害」の払拭である。

このような状況下において、観光と情報という二つのキーワードを学会名称に掲げる我が観光情報学会が、どのような貢献を果たすべきなのかが問われている。

本シンポジウムでは、北大の国際広報メディア・観光学院が北海道観光振興機構の協力の下で行った「震災後の影響と道内観光産業」と題した緊急アンケートの結果を報告するとともに、既に「風評被害」に関連する研究を行った実績を持つ観光情報学会の会員を交えて、道内観光産業の今後の振興プランを議論する流れを取っている。

また、さっぽろ観光学研究会のメンバーは、北海道観光振興機構でソーシャル・メディアを活かした観光振興のワーキンググループにも参加しており、災害からの復興とソーシャル・メディアによる振興プランについて議論を開始している。本シンポジウムは、実態報告、既存事例報告、そして情報技術による突破口を探るという流れによって構成されている。とりわけソーシャル・メディアによる情報発信が現在のわが国がおかれているような緊急時において、どこまで有効なツールとなり得るのか、本シンポジウムの議論によって何らかの可能性を探り、広く産業界の方々に向けて提案したい。

震災後の影響と道内観光産業の振興プラン

— 北海道観光産業にいま必要なことは何か? —

(総合司会) さっぽろ観光学研究会主査 内田 純一

13:00 受付開始

13:30 開会挨拶

(社)北海道観光振興機構 会長 坂本 眞一

第1部

13:40 「東日本大震災に関わる道内観光産業の影響度緊急調査」報告と提言

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院(東日本大震災調査研究プロジェクトチーム)

宮部 潤一郎(チーム・リーダー)・北見 幸一・伊藤 直哉

14:30 「北海道観光振興機構の取り組み」報告

(社)北海道観光振興機構 専務理事 北山 憲武

14:45 「風評被害と観光情報メディア」事例と対策

北海商科大学商学部 大内 東 ・ 北海道情報大学経営情報学部 長尾 光悦

15:05 「ソーシャル・メディアと観光振興プラン」提言

北海道大学大学院情報科学研究科(北海道観光振興機構・情報システムワーキンググループ・座長)

川村 秀憲

15:25 「日本人の観光スタイルはどう変化するか」話題提供

(有)エスイーティ代表 観光マーケティング・プランナー 奥山 高樹

15:45 休憩

第2部

16:00 総合パネル・ディスカッション「道内観光産業の振興へ向けて—いま必要なことは何か?—」

【コーディネーター】 伊藤 直哉*

【パネリスト】 宮部 潤一郎*・北山 憲武・長尾 光悦・川村 秀憲・臼井 冬彦*

* 印は北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院(東日本大震災調査研究プロジェクトチーム)メンバー

・ 適時、会場から意見・質問を募る予定

17:00 閉会挨拶

観光情報学会 会長 松原 仁

(以上、敬称略)